

(IX回) 以来、IPS 創立に絡み、ISS としては、IPS とできるだけ密接な関係を保ちながら、それ自身の存続も有意義であるよう何かと苦心しているかのように見える。現存は、Hawaii 大学の Doty 氏が窓口となり、Canada の New Brunswick 大学の Taylor 氏や Chile の Pontificia 大学の Santelices氏(IAC の一員)などを通じて IPS の連絡を取っている。そこでまず、次回 IPS (1985, Denmark) に、ISS によるミニシンポジウム部会を設けて貰い、また逆に次回 ISS (1986, Brazil) の中にも IPS の部会を入れて貰うよう ISS 側から働きかけることなど決めた。ISS と IPS は本来の目的は違うが、内容的にはかなり重複する部分もあり、両者に参加することは、内容的にも資金的にも参加者の不便になりはしないか、それを防ぐ方法は何か、など論議された。

4) FAO の発展途上国に対する海藻資源の収穫と利用面の援助に、IAC もできるだけ応援する意見が皆の賛同を得た。FAO では有用海藻の名称と特質のリスト作製など計画している (FAO 代表として米国の Caddy 氏が説明した)。

5) IAC が、業界の Whitney氏や Stancioff氏などを昼食に招待し、種々 ISS のあり方運営その他につき意見を聞いた際に、やはり IAC が業界のために役立つことが希望された。具体的には Marinlg 当りの希望でもあるが、海藻成分の利用限度の研究やマクロ藻養殖と収穫のための生理学も重要だし、養殖に関する相互の情報およびデータ修復機構の必要性など論議された。ついでながら、講演の中に国の政策的色彩の濃い

ものがあつたが、そのようものは IAC で予め箇にかけるべきだとの意見が一致した。

6) 22日の委員会で、次回 ISS (1986) は Sao Paulo 大学 (de Oliveira 氏が国内委員長になるはず) で、その次のには (1989) Vancouver で行われる予定が決定された。1989 ISS は France か Chile という案も出た。次回の IAC 委員長は Norway の Jensen 氏が McLachlan 氏に代り、また副委員長は Moss 氏になることが決った。

7) 青島 ISS の国内組織委員長の Tseng (曾)氏から、UNESCO の仕事として明年青島で養殖に関する講習会を開き、外国からも参加できるようにし、その経費は UNESCO から援助するようにする計画が発表された。また FAO との関連強化に IAC 側では委員の Delepine 氏 (仏)、Doty 氏 (米)、Moss 氏 (米)、Tseng 氏 (中) などが Caddy 氏と連絡に当たることが決った。

8) 25日以降の会議には筆者は帰国のため出席できなかったが、そのうち主なことは、今回の ISS プログラム作製 (専門的区分けなど) は満足すべきものではなく、将来は例えば生物学や化学の領域ではさらに細く区分けすべきであるという意見がでた。また ISS に学会賞を置く案も議論されたという。発表講演 116 の要旨が集ったが、そのうち68が受理され、修正、却下 17件であった。Tseng 氏から今回の青島 ISS の会計につき、詳細は1ヶ月後に Trondheim ISA 本部に連絡するという報告がなされた。

(東京教育大学名誉教授 〒176東京都練馬区白山3-10-4)

—学 会 録 事—

1. 日本藻類学会第7回大会

昭和58年7月25~26日の両日、北海道室蘭市・室蘭プリンスホテルにおいて第7回大会が開催された。本大会は北海道大学理学部附属海藻研究施設50周年を記念して開催されたものである。他の記念行事については別項に記した。北海道での大会開催は初めてのことで、当初準備委員会では地理的不便さによる参加者数の減少を危惧したが、日を経るにつれて申込み数が増え、最終的には参加者111名、講演数54題 (一般講演50題、シンポジウム4題) となった。

大会第1日目、一般講演終了後に昭和58年度総会と懇親会が開かれた。懇親会には103名出席、館脇正和

氏司会のもとに岩本康三学会会長の挨拶、阪井與志雄大会会長の乾杯で始まり千原光雄氏の閉会の挨拶で終るまでの約2時間、余興のカラオケをも混じえて極めて盛会かつ豪華であった。

本大会の会場が会員の所属機関を離れてホテルに設営されたのは今回が初めてである。大会、懇親会の開催準備と運営に加え、会場設営にも多大の尽力をされた北大理学部海藻研究施設並びに植物学教室の方々に深く感謝致します。

大会参加者：秋岡英承、秋山 優、鯉坂哲郎、阿部英治、安部 守、飯間雅文、井浦宏司、石川依久子、石光真由美、市村輝宣、庵谷 晃、巖佐耕三、井鷲裕

司, 岩本康三, 尹 夏鏞, 内田卓志, 梅崎 勇, 榎本幸人, 大谷修司, 大野正夫, 大森長朗, 奥田一雄, 長田敬五, 大島海一, 垣内政宏, 角田修次, 加崎英男, 笠原和男, 梶村光男, 梶原忠彦, 片野 登, 金子 孝, 香村真徳, 川井浩史, 川口栄男, 川嶋昭二, 加藤秀夫, 笠井文絵, 黒木宗尚, 工藤利彦, 高原隆明, 小林 弘, 今野敏徳, 斉藤英三, 斉藤捷一, 阪井與志雄, 佐々木茂, 佐藤恭成, 佐藤輝夫, 沢崎達孝, 三本菅善昭, 清水 哲, 鈴木秀和, 竹田信一, 田沢伸雄, 館脇正和, 田中次郎, 千原光雄, 辻 寧昭, 寺脇利信, 出井雅彦, 徳田 廣, 中島秀明, 長島秀行, 中野武登, 中原紘之, 中村泰男, 中村義輝, 南雲 保, 名畑進一, 新原義昭, 新山優子, 西浜雄二, 西沢一俊, 野崎久義, 能登谷正浩, 芳賀 卓, 浜田 仁, 原 慶明, P.S. パンディ一, 富士由紀子, 富士川龍郎, 藤田大介, 船野 隆, 舟橋説往, 堀 輝三, 堀口健雄, 前田昌徹, 玉置富太郎, 増田道夫, 松江和則, 真山茂樹, 三浦昭雄, 水野真, 宮地和幸, ミン・タイン, 本村泰三, 森 宏枝, 本吉 博, 山岸高旺, 山田家正, 山本虎夫, 山本弘敏, 横田雅之, 横浜康継, 吉崎 誠, 吉田忠生, 渡辺仁治, 渡辺恒雄, 渡辺 信, 渡辺真之

2. 評議員会・編集委員会合同会議

第7回大会第1日の7月25日(12:10~13:00), 室蘭プリンスホテルで評議員会・編集委員会合同会議が開催され, 昭和58年度総会に提出される報告事項と議題によって審議された。審議内容は後述の総会報告と重複するので, その項を参照されたい。

出席者: 岩本康三会長, 三浦昭雄編集委員長。秋山優, 千原光雄, 堀 輝三, 巖佐耕三, 西沢一俊評議員・編集委員。市村輝宣, 阪井與志雄, 梅崎 勇, 山本弘敏各評議員。黒木宗尚, 小林 弘, 正置富太郎, 吉田忠生各編集委員。今野敏徳, 庵谷 晃, 高原隆明, 本吉 齊各幹事。

3. 昭和58年度総会

昭和58年7月25日, 室蘭プリンスホテルにおける第7回大会第1日目(18:10~18:40)に総会が開催された。岩本康三会長の挨拶に続いて, 正置富太郎氏(北大・水産)を議長に選出して議事に入った。

I. 報告事項

1. 庶務関係

(1) 会員状況(58年5月現在): 名誉会員3名。普通会員496名。学生会員67名。団体会員42名。賛助会員13名。外国会員80名。(2) 昭和57年度文部省科学研究費補助金「研究成果刊行費」98万円を受けた。また昭和58年度分として105万9千円の補助金を申請した。

(3) 日本学会事務センターに58年度学会業務の一部を委託する契約が締結された。(4) 第48回日本植物学会大会会期中(10月3~5日, 京都工芸繊維大)に秋季集会(講演会と懇親会)を開く計画がある。

2. 会計関係

(1) 昭和57年度会費の納入状況は良好で, 普通会員, 学会会員ともに納入率が90%を超えている。(2) 昭和57年度一般会計, 山田基金決算報告は昭和58年2月18日, 猪川倫好(筑波大・生物科学系)および渡辺 信(国立公害研)の両監事により適正であることが認められた。

3. 編集関係

(1) 昭和57年度に発行された第30巻1~4号は, 総頁数348頁, 掲載論文37編, 短報16編, 広告14頁(16件)であった。(2) 昭和58年度既発行分の第31巻1~2号の掲載論文数は21編, 126頁。3号以下に掲載予定の論文は審査中, 改筆中のものを含めて12編である。

II. 審議事項

1. 昭和57年度一般会計決算報告・同監査報告。

表-1のとおりで, 承認された。

2. 昭和57年度山田幸男博士記念事業基金特別会計決算報告・同監査報告。

表-2のとおりで, 承認された。

3. 昭和58年度一般会計予算案

昭和58年度予算案(表-3)についての説明がなされ, 質疑の後原案どおり承認された。

4. 会計関係

(1) 山田基金の活用について。これまで山田基金については, 基金総額が100万円に達した時にその預金利子で賄う, ということが基本的な案として了解されてきた。基金総額は表-2のとおり100万円を超えているので, この活用に関する原案の検討を北大理学部黒木宗尚氏に委嘱したいとの提案がなされ, 承認された。

(2) 印刷費高騰の折から別刷代金の個人負担額を再検討することとした。(3) 昭和59年度文部省科学研究費補助金「刊行助成金」の申請を行う。

5. 編集関係

文部省科学研究費補助金を受けるについての「藻類」第31巻1-4号の責任頁数は272頁とされている。現時点では論文数が不足気味なので, 奮って投稿して欲しい旨要望された。

6. 昭和58・59年度事業計画

以下のことが承認された。(1) 昭和58年10月3日から京都工芸繊維大学で開催予定の日本植物学会大会の折に秋季集会(講演会・懇親会)を開く。世話人は梅

崎 勇氏 (京大・農)。(2) 昭和59年度 日本藻類学会 第8回大会および総会を東京学芸大学で開催する。

表-1 昭和57年度 一般会計決算報告 (57.1.1~57.12.31)

日本藻類学会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
会 費	3,712,113	印 刷 費	5,006,753
〔普通会員〕	2,539,000	〔印刷代30巻1~4号〕	4,180,253
〔学生会員〕	255,500	〔別刷代〕	826,500
〔団体会員〕	303,800	学会事務センター扱い分	1,233,379
〔外国会員〕	393,813	〔業務委託費, 会誌発送費〕	
〔賛助会員〕	220,000	〔請求書発送費, コピー代他〕	
販 売	857,889	発 送 費	9,590
〔定期〕	483,289	編 集 費	236,400
〔バックナンバー〕	374,600	〔論文審査料, 英文校閲謝礼〕	
別 刷 代	793,623	〔編集補助費, 通信費〕	
超過頁負担金	545,000	庶 務 費	188,480
広 告 代	369,430	〔事務用品費, 会議費〕	
文部省刊行助成金	980,000	〔事務補助費, 通信費〕	
預 金 利 息	22,920	〔雑印刷費, 事務局移転費〕	
		幹事手当	90,000
		幹事旅費補助	12,000
		春季大会運営補助	32,287
		選挙費用	76,360
小 計	7,280,975	小 計	6,885,249
前年度繰越金	808,746	次年度への繰越金	1,204,472
合 計	8,089,721	合 計	8,089,721

昭和58年2月18日

本決算報告は適正であることを認める
昭和58年2月18日

日本藻類学会 会 長 千 原 光 雄 ㊞
日本藻類学会 会計幹事 田 中 次 郎 ㊞
日本藻類学会 会計監事 渡 辺 信 ㊞
日本藻類学会 会計監事 猪 川 倫 好 ㊞

表-2 昭和57年度 山田幸男博士記念事業特別基金会計決算報告 (56.1.1~57.12.31)

日本藻類学会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
山田追悼号売上金 (4冊)	22,000		
学会出版物売上金	15,500		
〔コンプ論文集 (5冊)〕	3,500		
〔日米セミナー (4冊)〕	12,000		
預 金 利 息	19,250		0
小 計	56,750	小 計	0
前年度繰越金	1,095,507	次年度繰越金	1,152,257
合 計	1,152,257	合 計	1,152,257

昭和58年2月18日

本決算報告は適正であることを認める
昭和58年2月18日

日本藻類学会 会 長 千 原 光 雄 ㊞
日本藻類学会 会計幹事 田 中 次 郎 ㊞
日本藻類学会 会計監事 渡 辺 信 ㊞
日本藻類学会 会計監事 猪 川 倫 好 ㊞

表-3 昭和58年度 一般会計予算案

日本藻類学会

収 入		支 出	
会 費	3,772,000	印 刷 費	4,650,000
普通会員 (490)	2,450,000	(印刷代)	3,850,000
学生 " (68)	238,000	(別刷代)	800,000
外国 " (78)	468,000	編 集 費	330,000
団体 " (42)	336,000	(論文審査料)	65,000
賛助 " (14)	280,000	英文校閲料)	75,000
販 売	878,000	編集補助費)	90,000
(定期購読)	528,000	通信連絡費)	100,000
(バックナンバー)	350,000	会 誌 発 送 費	304,000
別 刷 代	800,000	庶 務 費	660,000
超 過 頁 負 担 金	550,000	(事務用品費)	80,000
広 告 代	320,000	会議費)	48,000
利 子	20,000	通信・印刷費)	132,000
雑 収 入	1	事務整理補助費)	90,000
刊 行 助 成 金	1,000,000	諸雑費)	200,000
		幹事旅費補助)	35,000
		(幹事手当)	90,000
		学 会 セ ン タ ー 業 務 委 託 費	700,000
		第 7 回 大 会 補 助 金	100,000
小 計	7,340,001	小 計	6,759,000
前年度繰越金	1,204,472	予 備 費	1,785,473
合 計	8,544,473	合 計	8,544,473

4. 北海道大学理学部附属海藻研究施設創設 50 周年記念行事

1. 公開講演会と映画会 (昭和58年7月24日) 12:30～15:00; 室蘭市労働会館)

演題並びに講師

- (1) 海藻研究施設50年の歩み

中村義輝 (前海藻研究施設長)

- (2) 海藻の色は語る

横浜康継 (筑波大学)

- (3) ホタテガイを毒化させるプランクトン

西浜雄二 (道立栽培漁業総合センター)

映画: (山本海苔研究所提供)

2. 記念式典と祝賀会

- (1) 記念式典 (昭和58年7月24日 16:00～16:40; 室蘭プリンスホテル金枝の間)

海藻研究施設長阪井與志雄氏の開式の辞ののち、伊藤英治北大理学部長の式辞、松下政雄北大理学部事務長による施設の沿革報告がある。そのあと、有江幹男北大学長、岩田弘志室蘭市長、北林 浩胆振支庁長、岩本康三日本藻類学会長の祝辞があり、出席者約120名の盛会の中に閉式となる。

- (2) 祝賀会 (同上17:00～19:00; 同上銀枝の間)

上記式典につづいて、海藻研究施設の館脇正和氏の司会で、立食パーティー形式で行われた。伊藤理学部長の開会のあいさつ、辻野 勇北大水産学部長の音頭による祝杯のあと、なごやかに、賑かに会は進行し、途中、故山田幸男先生の御夫人及び故神田千代一先生の御夫人の挨拶もあり、中村義輝施設長の乾杯で祝賀会ははしめくくられた。

投 稿 案 内

I. 編集の方針 本誌には藻学と応用藻学に関する会員の未発表の、論文・総説・短報（速報・短い調査報告など）雑録（抄録・採集地案内・分布資料・ニュース・所見・新刊紹介など）を掲載します。論文はデータや考察の獨創性の有無に重点を置いた編集委員会の審査を経たのち受理されます。原稿の取捨掲載順序、体裁などは編集委員会および編集幹事で決めます。原稿は和文または英文とし、論文と総説は刷上り6頁、短報は2頁、雑録は1頁以内を無料とします。頁の超過は制限しませんが、頁の超過分、折込み、色刷りなどの費用は著者負担となります。和文原稿では5枚が、英文原稿では2枚が刷上り1頁となる見当です。

II. 報文の書き方 和文原稿は400字詰原稿用紙（横書きB5またはA4）に、当用漢字、新仮名使い（生物名は片仮名）を用い楷書体で書いて下さい。英文原稿は厚手タイプ用紙を用い、ダブルスペースで28行にタイプで打ち、十分な英文添削または校閲を経たのち提出して下さい。新種の発表や学名の記載に当っては国際植物命名規約に従って下さい。なお、アラビア数字・メートル法・摂氏温度を用い、学名などのイタリック体には下線1本、人名などのスモールキャピタルには下線2本、ゴシック体には波状線1本を記入して下さい。

例：Batrachospermum ectocarpum Sirod., Summary, sec, min, hr, nm, μm , mm, cm, m, μl , ml, l, μg , mg, g, N, M, ppm, lux, g(gravity), 25°C など。

原稿は、標題・英文要約（和文・英文原稿共）・本文・引用文献・和文摘要（英文原稿のみ）・表と図とその説明（英文）の順にまとめて1組とし、コピー共2組（写真は現物2組）にしてお送り下さい。

- 1) 標題と要約 英文原稿では、欄外見出し・標題・著者名・要約の順に、和文原稿では、欄外見出し（英）・標題と著者名（和と英）・要約（英）の順に記入して下さい。要約は著者名・標題・雑誌名・まとめ（200字・必要に応じて400字まで）・著者と宛先の順に記入し、研究費に対する謝辞は脚注に入れて下さい。
- 2) 本文 標題紙に記した以外の謝辞は、なるべく本文の末尾に入れて下さい。表と図は必ず本文中に引用（Fig. 1, Table 1 のように）し、文献の引用は次の例にならって、著者名と出版年および必要に応じて頁（単行本の場合）を明示して下さい。

例：…aquatic ecosystems (WELCH 1972, 1974), Liebig's (1840 p. 23) "low of the minimum" is..., …が知られている (YAMADA 1949), 岡村 (1907 p. 56) は、

- 3) 引用文献 本文中で引用した文献のみを、別紙にアルファベット順に列挙して下さい。引用は、①原著の引用と、②図書目録を見て目的の書物を捜し当てるための引用の2本立てとし、それぞれがイ) 著者名 ロ) 出版年 ハ) 標題（巻次を含む）ニ) 対照事項（頁・図など）ホ) 出版事項（出版者・出版地）のうちの必要部分からなるよう順を追って下例にならって記入して下さい。
 (単行本) ①, ②共通 広瀬弘幸¹⁾ 1959. ²⁾ 藻類学総説. ³⁾ 内田老鶴圃, 東京⁴⁾.
 (単行本中の1章) ①DREBES, G.¹⁾ 1977. ²⁾ Sexuality. ³⁾ p. 250-283. ⁴⁾ ②In D. WERNER [ed.]¹⁾ The biology of diatoms. ²⁾ Blackwell Sci. Pub., London.³⁾
 (叢書中の分冊) ①HUSTEDT, F.¹⁾ 1930. ²⁾ Bacillariophyta. ³⁾ ②In A. PASCHER [ed.]¹⁾ Sübwasser-Flora Mitteleuropas. ed. 2. No. 10. ²⁾ Gustav Fischer, Jena.³⁾
 (雑誌の中の1論文) ①森 通保¹⁾ 1970. ²⁾ *Batrachospermum ectocarpum* SIROD. の分類学的研究. ³⁾ ②藻類 8⁴⁾: 1-8. ⁵⁾
 ①MORI, M.¹⁾ 1975. ²⁾ Studies on the genus *Batrachospermum* in Japan. ³⁾ ②Jap. Journ. Bot. 20⁴⁾: 461-485. ⁵⁾

- 4) 和文摘要 英文原稿の場合のみ、和文で、著者名・標題・宛先も入れ400字以内にまとめて下さい。
- 5) 表と図およびその説明 英文で書き、表と図は印刷頁の寸法（14×20.5 cm）、特に横幅（全幅 14、片段 6.6 cm）を考慮し、原寸大または縮小したとき印刷頁におさまる大きさに仕上げ、図には倍率を示すスケールを入れ、線や記号、文字、数字はタイプライター、レタリング用具などを用い黒インキで鮮明に記入し、そのまま印刷に廻せるようにして下さい。なお、特に表の組版を希望の場合はその旨明記して下さい。表と図の裏には著者名・番号・希望縮尺を記入して下さい。表と図の説明は別紙とし、それを入れる場所を本文原稿左欄外に明示して下さい。

III. 校正と別刷 著者校正は初校のみとし、編集幹事から送りますので、3日以内に校正して同封の別刷申込書に所定の事項を記入して返送して下さい。別刷は、論文・総説・短報に限って50部を学会で負担します。

Information for Authors

Members of the Society are invited to contribute original research reports and short communications in Japanese or English on all aspects of phycology. Every research paper is read and criticized by reviewers on the basis of its originality and the discussion presented. Where appropriate, reviewers other than those on the Editorial Board are consulted. Final responsibility for selection and published order of papers rests with the Editor. Papers not longer than 6 printed pages including figures and tables and short communications within 2 printed pages will be published without charge (exclusive of reprints). Additional published pages will be charged to the author (10,000 Yen per page).

The manuscript should conform exactly to the following instructions. The **manuscript** should be typewritten, double-spaced, on thick paper of 21.5×28 cm or A4 size. Each typewritten page usually consists of 28 lines. Symbols, units and nomenclature should conform to international usage. The S.I. metric system should be used for all numerical data. Words to be printed in italics should be underlined. The original copy and one duplicate are required. The first page should have only the title, name(s) of the author(s) and institution with address, and any necessary footnote. A short running title should be included. Acknowledgements preferably follow the text but precede the references. Tables and legends for figures should be on separate pages and be placed after the references.

An **abstract** of not more than 200 words is required. At the end of the abstract, 5-10 Key Index Words should be given alphabetically for aid in indexing. A Japanese abstract will be provided by the Editor from translation of the abstract.

References. Citations in the text should read thus: LIEBIG'S (1840 p. 23)..... or(WELCH 1972, 1974). In the list at the end of the paper, references should be typed in alphabetical order. Each reference should be given in the following order: Name, Initials, Date, Title, Journal Volume: first page-last page. Example:

MIKAMI, H. 1978. On *Laingia hookeri* (Rhodophyceae, Delesseriaceae) from New Zealand. Jap. J. Phycol. 26: 65-68.

A book title should be followed by the name of publisher and place of publication. Example:

ABBOTT, I. A. and HOLLENBERG, G. J. 1976. Marine algae of California. Stanford Univ. Press, Stanford.

Tables should be numbered with Arabic numerals, have a title, and be referred to in the text.

Figures. whether line drawings or photographs, should be numbered consecutively in Arabic numerals, and referred to in the text. The maximum size for a full page figure is 14×20.5 cm. Line drawings should be made with black ink on white paper or blue-lined graph paper. Letters and numerals should not be made by hand, but should be made neatly with a lettering device (not a typewriter) and be of such size that the smallest character will not be less than 1 mm high when reduced. The original drawing and one set of clear copies are required. Photographs must be of good quality. They should be grouped to conform to the page style and format of the Journal and preferably be submitted at a size that permits reproduction without reduction. Photographs should be submitted in duplicate. Coloured plates may be printed at the expense of the author. The insertion of tables and figures in the text should be indicated on the right-hand margin of the sheet.

Proofs should be checked carefully and should be returned by air mail to the Editor within three days of receipt. The author will receive 50 offprints free of charge. Additional copies can be ordered at cost on the reprint ordering form sent with the proofs.